

広域ごみ処理施設等検討委員会

いよいよ適合地選定

5月14日、広域ごみ処理施設等検討委員会が開催されました。平成21年度の事業計画、並びに循環型社会形成推進地域計画について協議しました。

いよいよ、今年度は施設をつくる適合地の選定に入ります。自然環境や生活環境を保全し、周辺環境にも調和し、しかも収集運搬などの効率性を考慮し、3ヶ所（可燃ごみ処理施設＋リサイクルセンターで3ヶ所）の土地を探すこととなります。

利権がからんだり、ある意味では地域住民からすると迷惑施設にもなりますので、行政が調査決定

し、検討委員会に報告。その後、適合地が決定されれば、地域住民への説明会を開き、合意形成を行っていく予定です。

★交通審議会

ライフバス一部路線変更

5月18日、交通審議会が開催され傍聴してきました。

諮問のあったライフバスの新路線設置、路線変更への請願に対して町長に中間答申をすることが決まりました。

新路線の設置（鶴瀬駅西口～国道254号線～みずほ台駅西口）については、ライフバス既路線との競合もあり、新設及び翌年度以降毎年の町負担も大きいことから実現困難と判断。

一方、「北永井第一区中央通り

へのライフバス路線変更」の件については、初年度導入費用227万円ですみ、町の財政負担と沿線住民・福祉施設利用者の利便性向上との費用対効果等を考え、早急にライフバスに要請することになりました。

変更路線は、6号線「鶴瀬駅西口～三芳町役場・上富経由～ふじみ野駅西口折り返し線」の一部、具体的には役場入り口からJAいるま野三芳店に真っ直ぐ走っていた路線を桜荘、かしの木ヶアセンターを経由するように「役場入り口～役場～落合ガス～ローソン～桜荘～かしの木ヶアセンター～JAいるま野三芳店」と迂回する路線に変更されます。

尚、公共交通システムのあり方については継続審議となりました。

★水道審議会

耐震補強設計、改修計画作成

5月22日、水道審議会が開催され傍聴してきました。

財政状況と浄水場施設の耐震診断調査結果報告が主な内容でした。

水道料金は、近年の経済状況の悪化を受けて、大口使用者による需要が減少、大規模住宅建設も一段落し、加入金も減少し、総事業費用も減少傾向になっています。三芳町の水道料金は県内市町村の

中でも5番目の低料金。ただし、企業債は、未償還元金、利子で約25億円で増える傾向にあります。

三芳町の水道使用量は、一日1万5千500t。7割を県から購入し、町水（深井戸）は3割。県水は①の県水受水配水池で受け入れ、町水は②の浄水池に入り、ここで県水と混合され消毒されます。そして、昼間は③の配水池からポンプで各地域に送水、夜は、

④の配水塔から自然流下で各地域に送水されてきました。

耐震診断結果によると②浄水池は、大改造すると新設と同様の費用がかかるので改修計画まで使用。③配水池は地表40cmの土を取り除き弱い部分を耐震補強すれば使用可能。二層に分かれているので交互に工事を行う。④配水塔は現実的に耐震補強できず、空にして安全にし、いずれ解体とのことでした。（①は耐震診断除外施設）

いずれも今後、企業債等で対応することになるようです。今回の補正予算では、耐震補強設計、改修計画策定業務委託料が計上されています。



①県水受水配水池



②浄水池



③配水池



④配水塔